

安全データシート  
EDT-X

作成日:2018年9月1日

改訂日:2025年4月1日

## 1. 化学品等及び会社情報

化学品の名称	EDT-X(イーディーティー-エックス)
製品コード	CS-7101-1L、CS-7102、CS-7104
会社名	株式会社ファルマ
住所	東京都渋谷区大山町 36-7
電話番号	03-6407-2570
ファックス番号	03-3465-0300
電子メールアドレス	marketing2@falma.co.jp
緊急連絡電話番号	080-8878-0242
推奨用途及び使用上の制限	試験研究用:病理検査用脱灰液

## 2. 危険有害性の要約(製品の情報がいないため、成分のデータから区分を推定した)

GHS 分類	該当区分なし
GHS ラベル要素	
絵表示	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	なし
注意書き	なし

## 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
成分及び濃度	

成分	濃度	CAS 番号	官報公示整理番号 (化審法/安衛法)
エチレンジアミン四酢酸二水素 二ナトリウム二水和物	18.5%	6381-92-6	(2)-1265/2-(4)-116

## 4. 応急措置

吸入した場合	気分が悪い時は、医師の診察、手当を受けること。
皮膚に付着した場合	水で洗うこと。 皮膚刺激が続く場合、医師の診察、手当を受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。 眼の刺激が続く場合、医師の診察、手当を受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師の診察、手当を受けること。

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤	粉末、泡、水噴霧、二酸化炭素、乾燥砂
使ってはならない消火剤	なし
火災時の特有の危険有害性	燃焼により分解し、刺激性又は毒性のガスを発生する可能性がある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	有毒ガスが発生する可能性があるため、消火作業の際は適切な空気呼吸器、保護衣を着用し、風上から行う。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業の際には適切な保護具を着用する。
環境に対する注意事項	漏出物を環境へ放出しないように注意する。
封じ込め、浄化の方法及び機材	空容器に回収し、地域規則に従って処理する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	特になし。
安全取扱注意事項	眼、皮膚への接触を避けること。 換気の良い区域で使用すること。
衛生対策	取扱い後は手などをよく洗うこと。
保管	
安全な保管条件	日光を避け、容器を密閉し、涼しい場所で保管すること。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定
許容濃度	
日本産衛学会	未設定
ACGIH	未設定
設備対策	取扱場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置すること。
保護具	
呼吸用保護具	状況に応じた適切な呼吸用保護具を使用する。
手の保護具	保護手袋を着用する。
眼の保護具	サイドガード付きの保護眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じ、保護衣又は長袖作業衣を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	
物理状态	液体

色	無色透明
臭い	無臭
融点／凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	>100°C(沸点)
可燃性	不燃性
爆発下限界及び爆発上限界／ 可燃限界	不燃性
引火点	不燃性
自然発火点	不燃性
分解温度	データなし
pH	7.0±0.2
動粘性率	データなし
溶解度	水に混和
n-オクタノール／水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	該当しない

#### 10. 安定性及び反応性

反応性	通常の条件下で安定。
化学的安定性	常温で安定。
避けるべき条件	日光、熱
危険有害反応可能性	強酸化剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素、窒素化合物

#### 11. 有害性情報(製品の情報が無いため、成分のデータから区分を推定した)

急性毒性	経口：ラットの LD <sub>50</sub> 値 >2000 mg/kg。 製品の濃度から区分に該当しない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷性又は 眼刺激性	データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし
誤えん有害性	データなし

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)	データなし
水生環境有害性 長期(慢性)	データなし
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	モントリオール議定書に列記されていない。

## 13. 廃棄上の注意

化学品(残余廃棄物)、当該 化学品が付着している汚染 容器及び包装の安全で、かつ、 環境上望ましい廃棄、又は リサイクルに関する情報	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に 従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、 もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には そこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有 害性を十分告知の上処理を委託する。 容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制並びに地 方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
--	---

## 14. 輸送上の注意

国際規制	該当しない。
国内規制	該当しない。
注意事項	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損のないよう に積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

## 15. 適用法令

化審法	優先評価化学物質(法第2条第5項)
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条 別表第1)(管理番号595)

---

上記内容は当社で入手可能な情報に基づいて作成していますが、記載データや評価に関しては、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。未知の有害性があり得ますので、取扱には十分ご注意ください。  
本 SDS は JIS Z7253:2019 に準拠して作成しています。